

もくじ
 手記「爆弾が落ちた日と絵本」 1p 鹿浜での子どもの生活 9 2p
 足立の水道覚書 上 3p おしらせ 3p おでかけ下さい地元の古代 1 4p

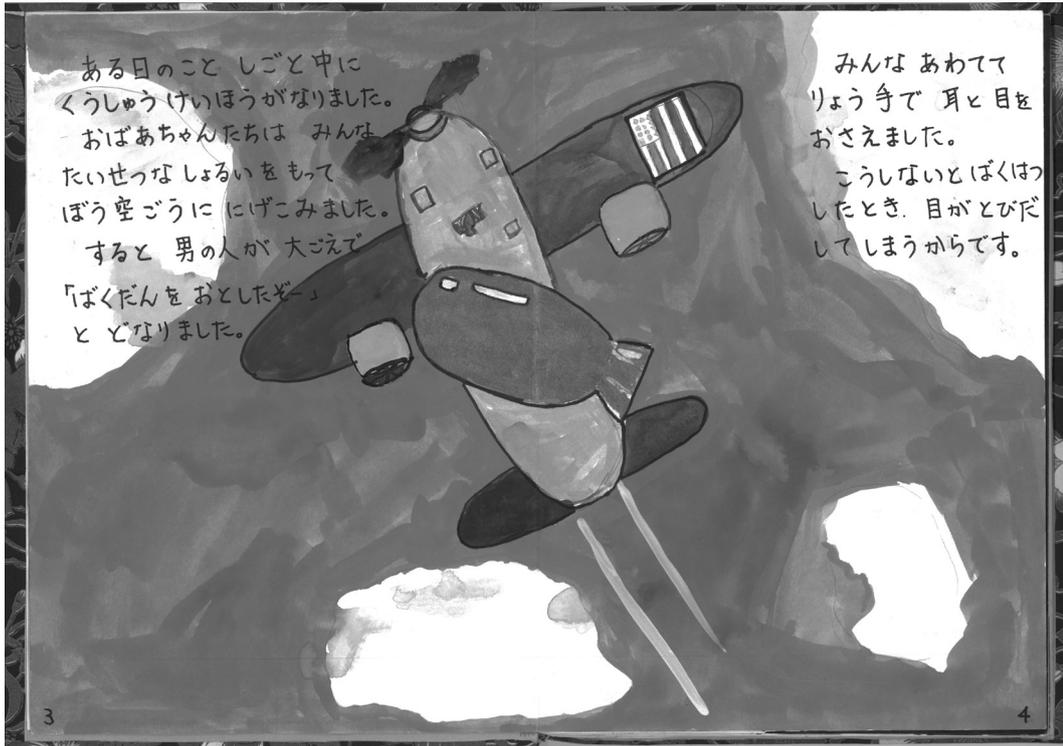
足立史談

第566号

2015年4月15日

足立区教育委員会
 足立史談編集局
 足立区立郷土博物館内

〒120-0001
 東京都足立区大谷田5-20-1
 TEL 03-3620-9393
 FAX 03-5697-6562
 (27-308)



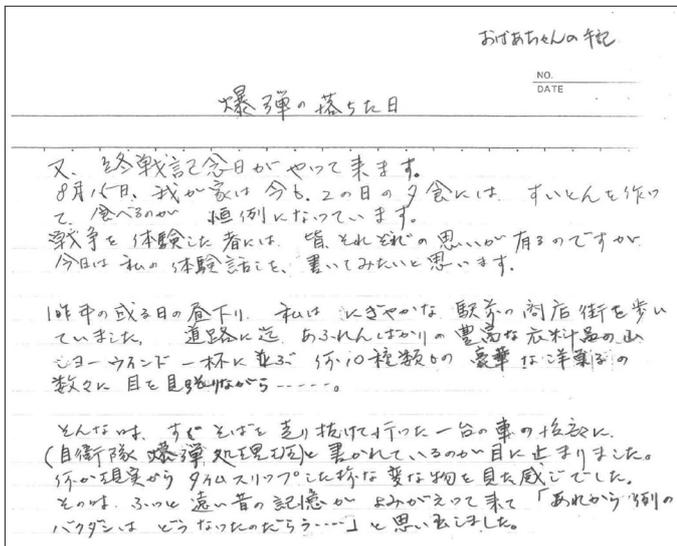
井上きみ子氏の体験談を元に制作された絵本「ふはつだんが おちた日」より爆弾が投下された様子を描いた3～4頁目。

手記「爆弾が落ちた日」と絵本 — 千住緑町の爆弾空襲 —

おり、その話をもとに絵本を制作しました。その後、娘の湯本さゆりさんの頼みで翌平成十一(一九九九)年に、きみ子さんが手記をまとめました。こうし

千住龍田町に住んでいた井上きみ子さん(昭和二・一九二七年〜平成二六・二〇一四年)は太平洋戦争中の千住緑町の爆弾空襲についての貴重な手記「爆弾が落ちた日」をお孫さんに遺しました。このたび、娘の湯本さゆりさん(千住緑町在住)から郷土博物館に、きみ子さんの手記をご提供いただきました。 (左下写真)

上に掲げた絵は、きみ子さんの孫で当時千寿第二小学校児童だった、湯本清孝さん(当時5年生。文と絵)と雅孝さん(当時2年生。彩色)が、平成十(一九九八)年の夏に制作した絵本の一部です。日頃から湯本家では、きみ子さんから、爆弾空襲のことが語り伝えられて



また終戦記念日がやって来ます。八月十五日、我が家は今もこの日の夕食には、すいとんを作って食べるのが恒例になっています。戦争を体験した者には、皆それぞれの思いが有るのですが、今日は私

井上 きみ子 著

手記 爆弾が落ちた日 (第1回)

て戦争体験者の貴重な手記と絵本が制作されました。今年、終戦七〇周年を迎えます。そこで今号から、記録のため手記を紹介しつつ、絵本の一部をご紹介します。

が体験話を書いてみたいと思います。一昨年のある日の昼下り、私は、にぎやかな駅前商店街を歩いていました。道路に迄、あふれんばかりの豊富な衣料品の山、シヨールウインドウ一杯に並ぶ何十種類もの豪華な洋菓子の数々に、目を見送りながら……。

そんな時、すぐそばを走り抜けて行った一台の車の後部に「自衛隊爆弾処理班」と書かれているのが目に止まりました。何が現実からタイムスリップした様な変な物を見た感じでした。

その時、ふっと遠い昔の記憶がよみがえって来て「あれから例の爆弾はどうなったのだろう……」と思ひ出しました。

今から半世紀以上前、私は千住緑町に有る軍需会社で事務の仕事をしていました。敗戦の色の濃い時代でした。街の商店はことごとく閉ざされ、何でも配給制度、食べる物もだんだん無くなり、野原の雑草も忽ち無くなる有様でした。

私達、女子職員は標準服と云う和服の様な物を着て、胸に名前、血液型を書いた布を縫いつけ、防空頭巾と、ズックのカバンに詰めた手回し品、それを交互に肩からかけた格好で来る日も来る日も、ただ日本の勝利を信じて頑張っていました。

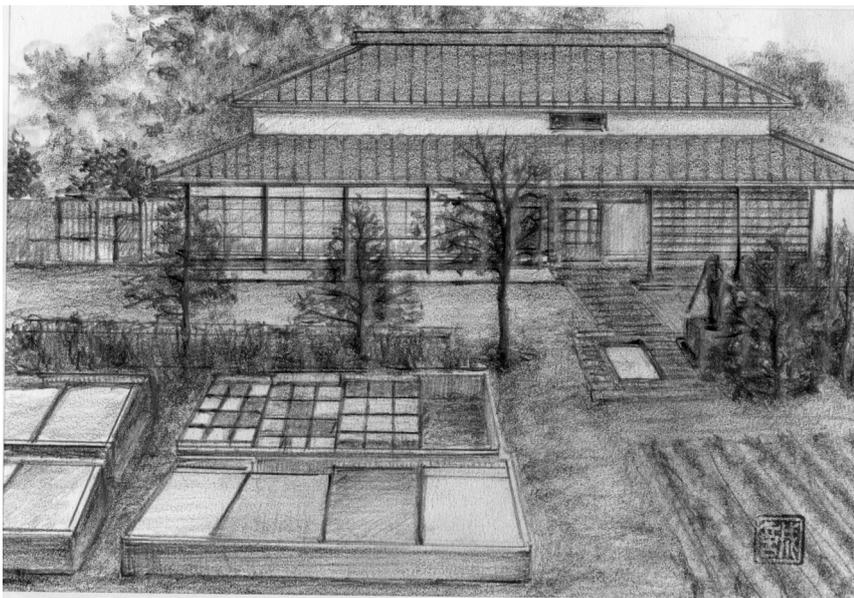
(つづ)

縁故疎開ですぎた北鹿浜町の思い出 27

鹿浜での子ども生活 9

小川 誠一郎

■冬的情景 冬の間は足回りが足袋と下駄になり、子供達の野外活動はずいぶん制限される。日中は終日表の庭で過ごす。寒風を避け、藁束の垣で囲われた南向きの、温床・苗床の陽だまりに集まり、日向ぼっこしながらおしゃべりするのが好き



家の前の畑に作られた温床
ガラスの大きさが均一でないため、光の反射がまちまちである。
油紙は枠組みに続けて貼ってしまっている。

だった。当時は冬が今より寒かった。朝は井戸のポンプが凍りついた。やかに湯を沸かし、持って行って溶かすのも人手を煩わすので、水を大きな桶に溜め置き、上に張った氷を割って顔を洗い、歯を磨いた。家の洗い場の池も凍結した。日陰の湿っぽい地面にはいたるところ霜柱が立ち、農道より低い田んぼは地下から水分を吸い上げ、全面が凍結したように固くなった。窪んだところは、上がってくる水が凍って、すりガラスのようになる白い氷板ができていた。きれいなところを割り取って口にするのが楽しかった。冬場の通学路には、田んぼの中間をザクザク自由に駆け抜け、最短距離で行けるところもあった。

鳥堀も、屋敷裏の日影に掛かる辺りは、冬中厚い氷が張り詰めるので、上に乗って遊べた。雪が降ると雨靴がないので外へ

出られない。無理して下駄で飛び出したりすると、足袋に雪解けの冷水が沁みて、足先の感覚がなくなる。そしてだんだん下駄の歯に雪が詰まって固い雪柱ができ、その重みで動きが取れず立ち往生する。冬の間、数カ月間は手足の指は霜焼けで腫れあがって感覚が鈍り、右手薬指は深いあかざれになって辛かったが、そのまま放置するほかなかった。

子供らを受け入れてくれる家々に集まり、軒先で石けりや縄跳びをし、母屋に半ば上がりこんでは、炬燵の近くでカルタをした。カード遊びは慣れると、子供達の上手い下手は、少しの年齢差より執着力がものを言うのが分かってきた。

■春を迎える 春の兆しが見え始めると、鳥堀は活気づき、水の色にも流れにも温もりが加わり、道端の小さな雑草達は競って芽吹きを始める。一方、荒川堤の桜並木は伐採の波が押し寄せる前で、かなり残っていたが、人心から見放され、手入れの行き届かぬ、老残の姿が淋しげだった。そして、しもた屋同然になった高橋茶屋の座敷につながる店内は、テーブルや椅子などが奥へ寄せ集められ、小さな子供達の格好の遊び場になっていた。しかし、娘さんが懐かしげに柵から取り出してくれた桜の押し葉帖は、相変わらず、馥郁とした甘い香りを放って、子供

博物館で

ボランティアをしませんか？

養成講座を開講します

郷土博物館では、土・日・祝日に展示解説ボランティアが活躍しています。博物館では解説ボランティア博友会と共同してボランティア養成講座を行い、新規ボランティアを募集します。

ボランティアとして活動するには、養成講座の修了と博友会への入会が必要です。詳しくは、説明会にご参加下さい。参加を希望される方は、5月23日までに、博物館へ電話でお申し込み下さい。

展示解説ボランティア養成講座

日にち	午前10時～12時	午後1時～3時
	研修の内容	
5月24日	説明会	ボランティア論
31日	常設展示1	常設展示2
6月7日	常設展示3	常設展示4
14日	常設展示5	まとめ・説明
6月～9月 見学実習2か所		
6月～9月 解説実習3回		
9月26日	修了式定例会参加	

収蔵資料展

版本の世界

— 娯楽・教養と挿絵の美 —

四月二十八日(火)～六月二一日(日)

江戸時代には、木版や活版を使った印刷技術が高まり、たくさんの方が出版されるようになりました。

当館も、区内の旧家に伝えられた和本を数多く収蔵しています。

それからの本からは、当時の人々がどのような本を読んで楽しんだのか、またどのような事柄を学習したのかうかがうことができます。

江戸時代の出版事情、ベストセラー、そして読む人々を魅了した生き生きとした挿絵など版本の世界を紹介いたします。

【展示構成】序章・版本の歴史／第一章・江戸時代の流行作家／第二章・版本と教養／第三章・絢爛豪華な挿絵の美／第四章・版本のある生活／終章・足立の文化と版本



おでかけ下さい 地元の古代

1 足立区地域文化課文化財係

足立区でも郷土博物館のある東部大谷田とは正反対の、西部は東伊興にある伊興遺跡公園にお出かけください。これはありますか。

平成5年10月に開園したこの公園は、豊かな杜をたたえ足立区発祥の地と伝わる伊興氷川神社の南どなりにあります。この一帯は埼玉県境をなされる毛長川縁に約一五〇〇前の古墳時代に形成された伊興遺跡の中心をなす地域です。

平成27年度は夏休み・秋期・春季の三期にわたり、古代のものづくりに親しんでもらう企画も計画しています。

今年度は次号以降、偶数月に五回に分けて伊興遺跡公園や展示館の見所を本紙でご紹介する予定です。この記事をお読みいただいて是非ご来園・ご来館下さい。足もとにある古代のロマンが皆さんをお待ちしています。

伊興遺跡公園展示館へようこそ

〈所在〉足立区東伊興4・9・1
〈利用案内〉開園 午前9時30分～午後4時 開館 午前10時～午後4時 休館日 12月28日～1月4日 入場無料

〈交通案内〉東武線竹ノ塚駅西口から東武バス「安行原久保循環」または「新里循環」で「北寺町」バス停下車、徒歩7分
〈問合せ〉〇三(三八九八)九一一一(展示館)または〇三(三三八〇)五九八四(文化財係)

